

表彰対象 団体名	総務部人事課採用係
-------------	-----------

推薦者	所属	人事課
	職名	課長
	氏名	小澤 将之

標題	25年ぶりの作業服のリニューアルを職員参画で実現
----	--------------------------

評価事業種別	☐ 発信・表彰	☐ 市民協創	☒ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他（ ）
--------	--------------------------------	-------------------------------	---	----------------------------------	-------------------------------	---------------------------------

項目	内容
取組概要	本市の作業服は長年規格変更されておらず、改善の声が多数上がっていたことから、全職員アンケートを実施の上、部局横断のワーキンググループを設置し機能性、快適性等の観点から検討を重ね新作業服を決定し、全職員に一斉に貸与した。 また「生駒市職員被服貸与規程」を全面的にリニューアルして、貸出・購入基準を見直し、新たにデータベースシステムを利用して数量管理を行うことでペーパーレス化とDX化が進んだ貸与管理を行えるようになった。
取組効果	職員の意見をもとに作業服を選定し、機能性、快適性が特に大いに向上したことで、職員のモチベーションの向上に繋がった。また、デザイン性が上がり、生駒市及び職員のイメージ（ブランド価値）がアップに繋がった。 さらに、貸与規程と数量管理手法を見直し、貸与物品の数量管理が徹底できるようになった。
創意・工夫した点	リニューアルに当たっては職員の声を重視し、アンケート結果を基にワーキンググループで検討を進めた。特に技術職等現場に出る職員が主体的に参画するプロセスとしたことで、職員の納得感を高め、円滑な導入と職員の満足度に繋がった。
推薦理由	25年ぶりとなる作業服のリニューアルを職員の声を丁寧に拾い上げ、アンケートやワーキンググループを通じて職員参画で実現し、職員の納得感を重視した進め方により、円滑な導入、職員の一体感向上にも寄与したとともに、「生駒市職員被服貸与規程」もゼロベースで見直し、現実に則した実効性のある被服貸与制度を再構築した点も合わせてを評価します。
その他 参考事項	

取組を表す図や表、写真、成果物など

1. 作業服リニューアルに向けたアンケート

作業服のリニューアル事業検討のためのアンケート

Q作業服を着用する際に何を重視しますか？

作業効率の向上	42.0%
安全安心の確保	30.0%
快適さや暑さ	20.0%
デザイン性の良さ	8.0%
その他	0.0%

Q新しい作業服に変更になった場合、どのような希望や期待を持っていますか？

清潔なデザイン	42.0%
快適な素材	30.0%
機能的なデザイン	20.0%
多様なサイズ感	8.0%
その他	0.0%

快適で機能的な着心地を求める声が多い。

作業服のリニューアル事業検討のためのアンケート

Q仕事へのモチベーションに与える影響

向上する	73.0%
変わらない	27.0%

Q市民とのコミュニケーションや印象に与える影響についてどう考えますか。

向上する	74.0%
変わらない	26.0%

デザイン性が優れた作業服に変更した場合

73%以上の職員から「モチベーションに影響がある」と回答

74%以上の職員から「市民への印象に影響がある」と回答

2. 作業服リニューアルに向けた検討会議の実施

作業服の紹介と検討

(1) 作業服を決定するまでの流れ

1. 作業服の紹介と検討

2. 作業服の決定

3. 作業服の配布

4. 作業服の回収

5. 作業服の廃棄

作業服の紹介と検討

作業服の決定

作業服の配布

作業服の回収

作業服の廃棄

3. 作業服リニューアル、全職員に配布

変更前

変更後

画像引用：作業服JP

https://www.workingwear.jp/item_page/SS1-

表彰対象者	所属	会計課
	職名	
	氏名	会計課職員及び構築に携わった職員

推薦者	所属	財務部
	職名	部長
	氏名	鋤田 明年

標題	更なる公金管理運用を目指して！！（安全・効率的な公金管理運用により収入増を目指す）
----	---

該当事業種別	☐ 発信・表彰	☐ 市民協創	☒ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☒ 地域貢献	☐ その他（ ）
--------	--------------------------------	-------------------------------	---	----------------------------------	--	---------------------------------

項目	内容
取組概要	会計課では、市の公金について収入・支出事務を行っている（いわゆるお財布番を担っている）。少し余裕がある時は、預金を行うという運用をしているが、金利が上昇していく中で、更なる運用を考え、公金管理運用指針（以下、「指針」）を大きく改訂し、昨年度債券購入を一部取り入れた。今年度は、年度ごとに指針を策定するとともに、継続的な運用ができるように、ラダー型運用を行い、完成させた。
取組効果	・物価高騰が続く中で、少しでも収入を増やし、事業に回すことができないかという視点を持ち、課としてできることを考えた。満期保有を前提とし、5年までの短・中期的な債券を購入することにより、定期預金以上の利子が収入となり、今後の事業に充てていくことができることとなった。
創意・工夫した点	低金利時代であったこともあり、今までは普通預金と定期預金の組み合わせにて資金の運用を行っていた。債券に関する知識がなかったため、証券会社が開催するセミナーに多数参加したり、財政部門とも相談をしながら、知識の習得・共有に努めた。また継続的にできるようラダー運用を行うことで、いつ、何をしたらよいか明確化させた。
推薦理由	公金管理は「安全性」を最優先し、流動的、効率的な資金管理を考えていくが、物価上昇による公金の実質価値の目減りへの対応も考えるという視点にたち、運用収益の確保による公金の実質価値を保全し、また事業に充てていくための方策として、20年ぶりの債券購入再開に踏み切り、一定の成果が出ていること、また担当者が変わっても継続できるよう、シンプルな購入方法を検討したことに対し、評価し、推薦します。
その他参考事項	

取組を表す図や表、写真、成果物など

1 歳計現金（日常支払現金）のチャレンジ！！

過去の実績から、ほぼ確実に余裕資金が発生すると見込まれる期間（図：矢印部分）について、引合い（入札）を行いました
その結果・・・

2 債券の購入チャレンジ（R6下半期から開始。7年度で5年10億円ラダーチャレンジ！！）

債券の購入を開始したことにより、生じる平均金利
令和7年度に受け取る利息
→531万1,382円
（定期預金で運用 250万円）
※約281万の運用収益

従来の管理方法を見直し、多様な公金管理の方法を勉強、検討、実施したことにより、令和7年度は**約550万円**の運用収益を得ることができました。今後も歳入確保につながるよう、経済情勢を鑑みながら適切な運用方

表彰対象 団体名	本活部・生涯学習部 図書館南分館
-------------	------------------

推薦者	所属	生涯学習部 図書館
	職名	館長
	氏名	西野 貴子

標題	10～20代による、本をテーマに交流するコミュニティ「本活部(ほんかつぶ)」の活動紹介
----	---

評価事業種別	☐ 発信・表彰	☒ 市民協創	☒ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他（ ）
--------	--------------------------------	--	---	----------------------------------	-------------------------------	---------------------------------

項目	内容
取組概要	本市在住・在学の中学生から20代までで構成された、本をテーマに交流するコミュニティ。原則、毎月第2・4土曜日に図書館南分館で活動する。若者世代が読書に親しむ機会を作り、本離れを解消する目的で平成30年に開始。「本活部@Lib×ライブ」と題したイベントの企画・運営、学童保育への出前読み聞かせ、おすすめ本を紹介した部誌の発行や南分館での書架作り、電子書籍の選書等、取組は多岐に渡る。
取組効果	本活部の部員の声として「好きな本や推しの話ができる」、「年齢に関係なく話せる」、「進路のことを相談できる」等があり、本活部という場が部員同士が交流できる、家庭でも学校でもない、サードプレイスとして機能していると考えられる。また、本活部による様々な取組は、大人から子どもではなく、子どもから子どもへ本を手渡すきっかけ作りとなっており、若者世代の読書推進に貢献している。
創意・工夫した点	本活部の活動においては、部員の意思や自主性を尊重している。運営に関わる職員は指導的な立場ではなく、気楽に話せるオブザーバー的なスタンスにある。強制感のない、ゆるく参加できる場として存在することで、気軽に参加してもらいやすく、部員同士も年齢差を気にせず交流でき、自分の思いや意見を出しやすいフラットな関係作りにつながっている。
推薦理由	全国的に若者世代の本離れが進む傾向にある中、本活部は若者世代の読書推進に貢献し、その活動の場がサードプレイスとして機能していること。また、その活動が図書館、ひいては市民の利益となっているため。
その他参考事項	令和7年5月に図書館流通センター主催で開催された「電子図書館サミットin関西」にて、本活部の活動について事例紹介の発表を行った。

取組を表す図や表、写真、成果物など



本活部@Lib×ライブ
「芝生で読書」



出前読み聞かせ



図書館南分館での普段の活動の様子



部誌『B.A.C.information』



生駒市電子図書館HP 本活部による選書本のバナー
(イラストは部員が手掛けたもの)

表彰対象 団体名	壱分幼稚園・なばた幼稚園
-------------	--------------

推薦者	所属	幼保こども園課
	職名	次長
	氏名	南口 嘉子

標題	壱分幼稚園・なばた幼稚園の交流保育～子どもの学びをつなげる～
----	--------------------------------

評価事業種別	☐ 発信・表彰	☐ 市民協創	☒ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他（	）
--------	--------------------------------	-------------------------------	---	----------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	---

項目	内容
取組概要	壱分幼稚園は令和9年度からの「(仮称)壱分こども園」開園に向けた工事を令和7年度から行うため、なばた幼稚園において交流保育を実施しています。 交流保育は、それぞれの園としての運営を行いながら、両園の園児が交流できるよう、職員が困難を乗り越え工夫を凝らしています。その結果、運動会や作品展では、2園合同の人数を活かした活発な保育となり、こどもたちの学び、育ちにつなげることができています。
取組効果	令和7年4月、なばた幼稚園は全園児で34名ですが、そこに壱分幼稚園の園児(全園児で56名)が合流することで、集団性が生まれ、活発な園運営につなげることができています。 また、交流保育によって大きな集団ができ、その集団の中に遊びごとのグループが生まれ、その中で自分を表現し友達とのコミュニケーションが広がり、こども同士が学び合う環境が育まれています。
創意・工夫 した点	2園が交流し活発な保育を展開していくためには、職員間の意思疎通や共有が不可欠です。定期的に合同会議を開催し、ねらいや保育内容を確認し、丁寧に保育を進めています。また、行事の実施に際しては、園毎に方法が違うこともあります。園児の学びや育ちにつながるよう、双方の良い部分を取り入れ、調整しながらよりよい事業とすることができています。
推薦理由	通常の保育に加え、園同士の調整を行うなどの負担がある中で、通常の保育を継続するのみではなく、園児同士の交流を行うなど、集団が大きくなることで園児が多様な体験をし、多くの人と関わることで、学びや育ちにつなげることができているため。
その他 参考事項	壱分幼稚園は、場所は離れたものの、引き続き壱分地域の協力を得て焼いもパーティ等のイベントを実施しているほか、なばた幼稚園の地域園協働本部「えん・くろす」の活動では、なばた幼稚園の園児・保護者だけでなく、壱分幼稚園の園児・保護者にも優しく声をかけ地域超えた関わりが生まれています。

取組を表す図や表、写真、成果物など



表彰対象 団体名	危機管理課及び協力職員(避難所自動参集職員・避難所担当職員)等
-------------	---------------------------------

推薦者	所属	経営企画部
	職名	参事
	氏名	杉浦 弘和

標題	全国初？！250人規模の避難所宿泊訓練！
----	----------------------

評価事業種別	☐ 発信・表彰	☒ 市民協創	☒ チャレンジ	☒ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他 ()
--------	--------------------------------	--	---	---	-------------------------------	----------------------------------

項目	内容
取組概要	■概要 訓練当日15時ごろ南海トラフ地震が起こり、電気や水道などのライフラインが止まっている状況で避難所を開設することを想定し、11月1日(土曜日)から2日(日曜日)にかけて、滝寺S. C体育館で避難所宿泊訓練を実施した。 ■参加者 市職員、他自治体職員、一般市民、協定事業者等総勢254名 ■目的 ①避難所運営の理解向上 ②備蓄品の再確認 ③市職員や協定事業者等の役割の確認
取組効果	◇参加者から避難所の設営・運営イメージが深まり、被災時の断水や停電が想像できたとの声があり、家庭の備蓄品や非常持ち出し品の見直しが必要であることを理解された。 ◇アンケート結果 ①実際の避難所の設営や運営を体験し、設営のイメージが深まった(98%) ① ②家庭の備蓄や非常持ち出し品について見直そうと思った(97%) ③災害時には避難所の運営に積極的に協力したいと思う(92%) ◇自治体間の顔の見える関係性を構築できた 
創意・工夫した点	◇停電・断水状態のリアルな避難所生活を体験(携帯トイレの使用、停電、資機材の使用) ◇実際の発災を想定した実効性の高い避難所レイアウト作成や運営ルールづくりの実施(全3回避難所運営勉強会を実施) ◇避難者の管理をDX化(LINEでの実試験) ◇災害協定企業等との連携 ◇子育て世代の参加を促進するためのチラシの工夫
推薦理由	◇本市で初めて一般市民参加型の泊まりがけの訓練 ◇参加者の多くから好意的な意見をいただいた ◇避難所業務に携わる協力職員は避難所運営勉強会への参加など訓練までも大きな負荷をかけていたが、訓練当日も含めて終始協力的であり、庁内の連携が深まった ◇内閣府職員や奈良県職員、他自治体職員の方々が数多く視察に来られ、市民や市職員の訓練に対する前向きで協力的な姿勢を賞賛されていた
その他参考事項	協賛団体:IDS(生駒市災害支援協力会)、生駒市スカウト協議会、トヨタユニテッド奈良(株)、江崎グリコ(株)、スタジオ@ippo

取組を表す図や表、写真、成果物など

募集チラシ裏



表彰対象 団体名	危機管理課及び協力職員(避難所自動参集職員及び 避難所担当職員)
-------------	-------------------------------------

推薦者	所属	経営企画部
	職名	参事
	氏名	杉浦 弘和

標題	延べ3,000人以上が参加！各地区防災訓練×市職員～顔の見える化～
----	-----------------------------------

評価事業種別	☐ 発信・表彰	☒ 市民協創	☐ チャレンジ	☒ 災害支援・善行	☒ 地域貢献	☐ その他（ ）
--------	--------------------------------	--	--------------------------------	---	--	---------------------------------

項目	内容
取組概要	■経緯 4年に一度の総合防災訓練の年として、各地区自治連合会が主体となって実施 ■内容 地区の特性を出しながら、指定避難所等で避難誘導、安否確認、避難者の受け入れ、避難所の環境整備等の訓練を5地区11か所で実施。 3,000人超の市民が参加 された。 ■本訓練への支援 補助率10割の補助金交付や 危機管理課職員の伴走支援 、そして 各地区の協力職員が訓練へ参加
取組効果	1.各地区で複数の自治会が連携して実施したので、地区内の連携が深まり、共助の向上につながった。 2. 市職員と地域の顔の見える関係が構築 できた。
創意・工夫 した点	1.進捗状況を効果的に把握し、助言や支援等を迅速に行うため、 地区ごとに担当者を決め、伴走支援 を行った。 2.地区ごとの防災力の現状や課題を認識するため、 全ての訓練に参加 し、危機管理課及び協力職員と地域との顔合わせや参加者との意見交換を行った。
推薦理由	1.こどもたちの興味を引くコンテンツを盛り込むことで普段の防災訓練には参加されない層の 子育て世代や女性の参加が多く 、自助や共助の向上に大きくつながった。 2.例年の地域イベントと連動させる地区もあり、地域活動の醸成に寄与した。
その他 参考事項	◇北地区：生駒北小学校区(約210名)、鹿ノ台小学校区(約500名)、あすか野小学校区(約560名)、真弓小学校区(約230名)で会場を分散し、起震車体験や資機材設営訓練、無線訓練等を実施。 ◇西地区：俵口小学校、光明中学校で赤十字奉仕団、民生児童委員、社協と連携して実施(約250名) ◇中地区：生駒小学校で炊き出し訓練や資機材設営訓練等を実施(約490名) ◇東地区：生駒東小学校でスポーツと文化のフェスティバルと同時開催(約700名) ◇南地区：生駒南小学校で有事判断ゲームやAED、消火体験など「体験」を重視して実施(約410名)

取組を表す図や表、写真、成果物など



表彰対象 団体名	令和7年度総合防災訓練参加者 生駒市災害対策本部 各班				推薦者	所属 職名 氏名	経営企画部 参事 杉浦弘和
標題	これぞチーム力！！ 全職員が協力した総合防災訓練や災害対処能力向上のための取組						
評価事業種別	☐ 発信・表彰	☒ 市民協創	☒ チャレンジ	☒ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他	()
項目	内容						
取組概要	令和7年度は総合防災訓練の年として、4月の帰宅困難者徒歩訓練に始まり、10月に防災講演会・防災マルシェ、11月に避難所宿泊訓練、10月～11月にかけて各地区自治連合会主体の地域訓練、そして1月に災害対策本部訓練を実施した。 これら以外にも、防災関係機関と連携した訓練などを年間を通して実施し、職員の災害対処能力の向上に努めたもの。 (災害ボランティアセンター運営訓練や物資輸送訓練、病院前救護所開設訓練への参加のほか、防災に係る勉強会、意見交換会を開催)						
取組効果	◇総合防災訓練では、多種多様な訓練を組み合わせたことで市民や職員の 防災意識が向上 ◇災害対策本部訓練では、生駒市で想定される事象や対応策について班を越えて検討することで、 各班の役割や動きを認識 ◇生駒市社会福祉協議会や災害応援協定各事業者等との 顔の見える関係を構築						
創意・工夫した点	◇各訓練は単なる「イベント」ではなく「訓練」として実施し、 リアルな体験や想定・対応 をしていただくことを心掛け、防災を「自分ごと」と考えていただけるような企画を行った。 ◇災害対策本部訓練は、企画段階から災害対策本部各班や経営企画部内外の参集職員との意見交換を行い、 実行可能性の高い役割や状況の付与 を行った。						
推薦理由	◇総合防災訓練の各訓練に 部内外の多くの職員が協力 ◇災害対策本部訓練では、発災直後に起こる事象や対応策について 各班を越えて検討 ◇ 県等主催の訓練 に危機管理課だけでなく 災害対策本部各班も参加 し、防災関係機関との連携や災害時の対応についての意識、知識や必要な技術について理解を深化						
その他 参考事項	これらの事業の他に、課題であった 受援マニュアル を策定した。また 避難所運営マニュアル を改訂予定。						

取組を表す図や表、写真、成果物など



帰宅困難徒歩訓練



防災マルシェ



防災講演会



災害ボランティアセンター運営訓練



職員訓練



物資輸送訓練



病院前救護所開設訓練

表彰対象 団体名	生涯学習部 生涯学習課 文化振興係
-------------	-------------------

推薦者	所属	生涯学習部 生涯学習課
	職名	課長
	氏名	甫田 和佳子

標題	「市民みんなで創る音楽祭10周年 チャレンジコンサート」開催
----	--------------------------------

評価事業種別	☐ 発信・表彰	☐ 市民協創	☒ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他 ()
--------	--------------------------------	-------------------------------	---	----------------------------------	-------------------------------	----------------------------------

項目	内容
取組概要	市民による公募提案型で実施されてきた「市民みんなで創る音楽祭」も令和7年度で10周年を迎えました。今後の音楽祭への参加者のすそ野を広げる目的で、新たな演奏家を募集しイオンモール奈良登美ヶ丘のならとみコートを会場に「チャレンジコンサート」を実施した。 日時: 令和7年8月23日(土)11:00～16:00 会場: イオンモール奈良登美ヶ丘3F ならとみコート 出演: 11組
取組効果	ショッピングモールという多くの人が行きかう場を会場とし、できるだけ若い世代をターゲットに募集したところ、今まで市で把握できていなかったミュージシャン、演奏家から想定をうわまわる応募があった。 このコンサート出演をきっかけに近未来の「市民みんなで創る音楽祭」へ新たなジャンルを加えることができる機会となった。
創意・工夫した点	音楽活動を行っている若い世代を呼び込むため、応募はWEBのみとし、手続きの簡略化を図った。係員が自ら近隣のライブハウスや大学等に足を運び、コンサートの周知と人材発掘を行った。また、出演者には「市民みんなで創る音楽祭」本公演7公演を観覧できる特典をつけ、本公演のイメージを確認できるようにした。 出演者同士の横のつながりを生むため、事前交流会の実施、当日の運営についても出演者で実施した。
推薦理由	市民とともに創ってきた音楽祭の伝統は守りつつ、新たな要素を追加し変革させていくための取り組みとして、企画している職員も応募した出演者も共に楽しめる工夫や仕掛けを随所に盛り込み、企画を実現し成功させた。さらに今回のチャレンジコンサートにかかわった出演者と市も交えたネットワークが作られ、令和8年度以降の事業へつながっている。
その他 参考事項	

を表す図や表、写真、成果物など

今、注目すべきアーティストが集結
IKOMA CHALLENGE
イオンモール奈良登美ヶ丘

表彰対象 団体名	福祉部 介護保険課 認定係 デジタルイノベーション推進課
-------------	---------------------------------

推薦者	所属	福祉部 介護保険課
	職名	課長
	氏名	上野 啓介

課題	タブレットを活用した「介護認定審査会」DX化事業
----	--------------------------

評価事業種別	☐ 発信・表彰	☐ 市民協創	☒ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他（ ）
--------	--------------------------------	-------------------------------	---	----------------------------------	-------------------------------	---------------------------------

項目	内容
取組概要	要介護度を認定する認定審査会資料のペーパーレス化を実施し、認定審査事務の効率化を図った。 次の段階として、認定審査会のオンライン開催を実現し、職員だけでなく、審査委員の負担軽減にも取り組んでいく。
取組効果	【職員の負担軽減】 ・資料作成に係る作業時間の短縮 約135分/回 → 約30分/回 ・資料送付日数の短縮 2日程度 → 即時 ・事務の効率化により審査期間の短縮や申請・認定の適正化が図れる。 ・今後増加する申請に対しても1回あたりの審査件数を増やすなど対応が可能。 【経費の削減】 ・5年間の経費試算においては、約2,000千円の削減が見込まれる。 ※タブレット購入やシステム導入費には国の補助金(1/2)を活用
創意・工夫した点	審査委員からの多くの質問に対応できるよう複数回に分けての説明会の実施や、8合議体の内、2合議体で先行導入しブラッシュアップを重ねたのち残り6合議体に導入するなど、認定審査委員にストレスがかからないよう導入を進めた。
推薦理由	・導入後もデジタルイノベーション推進課や認定係が審査会での意見に柔軟に対応することにより審査委員からも効率化に資する意見が提案されている。 ・認定審査会時に即時に各委員の判断が共有できるため、今までよりもスムーズかつ活発に審査会が進められている。 ・デジタルイノベーション推進課担当者により、職員の異動や審査委員の交代にも対応できる精度の高いマニュアルが作成できた。
その他 参考事項	認定審査会 認定審査委員 40人 合議体 8合議体(委員5人により構成)、合議体ごとに審査会を開催 年間約150回開催

取組を表す図や表、写真、成果物など

①審査会資料のペーパーレス化 システム導入のイメージ

◆年間A3用紙 約42,000枚
◆紙・印刷にかかる費用が増大！

◆年間約150回開催

導入前

審査会資料の作成・事前送付
コピー 審査会資料の封筒詰め 郵送
介護認定審査会
書類廃棄
シュレッダー、廃棄業者へ依頼

導入後

審査会資料の作成・事前送付
ドラック＆ドロップ
介護認定審査会
書類廃棄
自動廃棄

●紙ベースの膨大な資料と、準備時間を大幅に削減！
●審査員が事前に判定した内容等を審査会開催前に集約できるため、審査会の時間が短縮でき、1回あたりの審査件数を増やすことが可能。

表彰対象 団体名	都市づくり推進課・拠点形成室
-------------	----------------

推薦者	所属	都市整備部
	職名	次長
	氏名	有山 将人

標題	いこみなエリアの再整備に向けた実験的取組(イコミナ開放区・いこみなチャレンジ)
----	---

評価事業種別	☒ 発信・表彰	☒ 市民協創	☒ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☒ 地域貢献	☐ その他 ()
--------	---	--	---	----------------------------------	--	----------------------------------

項目	内容
取組概要	1. イコミナ開放区(滞留性・回遊性向上のための社会実験) 生駒駅周辺を「居心地よく歩きたくなるまちなか」にするため、滞留空間創出の社会実験を実施。①10/20～26生駒駅中央改札前 ②12/15～21イコマサウスモール前 2. いこみなチャレンジ(生駒駅南口エリア事業件走プログラム) いこみなエリアを一緒に面白くしていくチャレンジャーを見つけるため、エリアの空き物件を活かした開業・起業を経験豊富な実践者とともに支援
取組効果	1. ①では約1万2,000人が利用し、15店舗が出店。②では約3,000人が利用し、10店舗が出店。普段は通り過ぎるだけの空間に、思いがけない出会いや、ささやかな幸せの風景が見られ、利用者からも出店者からも好評を得ることができた。 2. 市内外から100名程の説明会申込があるなどエリアへの高い関心が裏付けられ、エリアを面白くしたいと本気で考えるプレイヤーを、エリア・物件への深い愛着を持つ所有者に繋げることができた。2/18まで2物件、ガバメントクラウドファンディング実施中。
創意・工夫した点	1. 前例のない規模・場所での社会実験のため、警察・道路管理者・交通事業者との9ヶ月近くにわたるハードな折衝を経て実現した。滞留空間のしつらえを市民参画の企画会議で考え、老若男女が自然にくつろげる空間をつくることができた。 2. 市場に出ていない空き物件の所有者と対話を重ねて、事業への理解と協力を得ることができた。候補者の最終プレゼンに至るプロセスにおいて、エリアに関わる方を多数巻き込み、実現の後押しと更なる物件発掘に繋げることができた。
推薦理由	市民・事業者の期待や関心が集まり、いこみなエリアの再整備に向けての機運醸成に寄与する取組であったため。
その他参考事項	庁内WG(事業計画・管理・土木・商工・防犯交通・施設M・都市づくり)や生駒駅南口エリアプラットフォームとともに企画。設営および当日運営は都市づくり推進課で実施。

取組を表す図や表、写真、成果物など





生駒駅中央改札前に設置した滞留空間



道路内に設置した滞留空間(イコマサウスモール前)



旧公設市場の木造アーケードに連なる町家



時が止まったたった5坪の路地裏物件

表彰対象 団体名	地域活力創生部 環境保全課 施設係
-------------	-------------------

推薦者	所属	地域活力創生部 環境保全課
	職名	課長
	氏名	河島 嘉明

標題	生駒市清掃センターの有効活用
----	----------------

評価事業種別	☐ 発信・表彰	☐ 市民協創	☒ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他（ ）
--------	--------------------------------	-------------------------------	---	----------------------------------	-------------------------------	---------------------------------

項目	内容
取組概要	清掃センターのごみ処理量が年々減少して処理能力に余裕がある一方で、電気代や人件費等の高騰により処理費用の増加への対応が課題となっていたところ、平群町及び斑鳩町から燃えるごみ受け入れについて依頼があった。このことを踏まえ2町との協議や地元への説明を行い、過去の処理実績の範囲内において2町のごみを受け入れ、本市の財政負担低減に繋げる。
取組効果	令和8年度の予定では、2町からの収入において約2億4千万円が見込まれる。2町からのごみの受け入れにより、維持費は約9千万円増加するものの、清掃センターの運営に係る人件費や点検費等の固定費をごみ量で案分することにより、約1億5千万円の維持管理経費の軽減が図られる。
創意・工夫した点	平群町、斑鳩町からごみの受け入れについては、搬入経路や搬入車両等の設定について生活環境に影響が出ないよう協議を行い、ごみ質やごみ排出ルールは生駒市に合わせることにし、地元自治会へは受入や焼却処理について説明等を丁寧に実施した。受入は委託方式とし、既存施設が稼働している間に限って2町からごみを受け入れることとしている。
推薦理由	施設の維持管理経費はごみ焼却施設に限らず増加しており、今後継続して施設を維持していく中で、2町からのごみを受け入れることは、財政負担の軽減が図られるとともに、広域処理を実施することで環境負荷の低減に繋がっている。
その他参考事項	清掃センターは令和4年度から令和6年度に実施した基幹的設備改良工事により施設の延命化や環境性能の向上、CO ₂ の削減が図られた。 令和7年10月1日に平群町、斑鳩町と、ごみの受け入れについての協定締結式を実施。 令和8年4月から受入開始。

取組を表す図や表、写真、成果物など

清掃センターごみ搬入量の推移

年度	生駒市 (t)	他自治体 (t)
H14	35,000	0
H15	35,000	0
H16	35,000	0
H17	35,000	0
H18	35,000	0
H19	35,000	0
H20	35,000	0
H21	35,000	0
R1	30,000	0
R2	30,000	0
R3	30,000	0
R4	30,000	0
R5	30,000	0
R6	30,000	0
R7	30,000	0
R8	25,000	10,000
R9	25,000	10,000
R10	25,000	10,000
R11	25,000	10,000
R12	25,000	10,000
R13	25,000	10,000
R14	25,000	10,000
R15	25,000	10,000
R16	25,000	10,000
R17	25,000	10,000
R18	25,000	10,000
R19	25,000	10,000
R20	25,000	10,000
R21	25,000	10,000

清掃センターごみ処理単価

年度	単価 (円/t)
令和2年度	28,224
令和3年度	27,881
令和4年度	27,473
令和5年度	26,731
令和6年度	26,178
令和8年度 (予想)	26,178